

十全會雜誌

第二十卷第四號(第百十一號) 大正四年四月一日發行

原著及實驗

●新竹地方淡水水産貝類ニ寄生

スル種々ノ「チエルカリヤ」

ニ就テ(第一回報告)

新竹醫院 中 川 幸 庵(二七年卒業)

肺二口蟲ノ中間宿主ヲ求メント欲シテ新竹廳管内到ル處ノ河流又ハ水邊ヲ涉獵シテ普通見ルモノ、外更ニ數種類ノ介貝ヲ發見シ「チエルカリヤ」ヲ檢査シテ十七種類ヲ集ムルコトヲ得タリ然レドモ「チエルカリヤ」ノ形態上直ニ肺二口蟲ニ屬スベキモノナリト判スルニ足ルモノナカリキ仍テ肺二口蟲「ミラチデイユム」ヲアラユル介貝類ニ吸著ヲ試ミタルニ最モ

ヨク吸著スルモノハ河貝子類ニシテ就中其(B)及ビ(A)ナリキ河貝子ノ(A)及ビ(B)共ニ寄生スル「チエルカリヤ」ハ第四種及ビ第十二種ノ二種類ナリ而シテ第四種ハ筵形肝ヂストマニ屬スベキモノナリト信ズルガ故ニ第十二種ノミ關係ヲ有スルモノナラン?此「チエルカリヤ」ハ肺二口蟲ノ流行地ナル新竹地方ニ於テハ蕃地ト云ハズ平地ト云ハズ各地ニ於テ最モ普通ニ見ラル、處ノモノナリトス河貝子培養試驗成績ノ擧ガラザル今日ニ於テハ之ヲ決定スルヲ得ザレドモ記シテ後日ノ研究ニ待タン

「チエルカリヤ」ニ關スル載籍殆ド絶無ナルガ如ク從テ十七種ノ「チエルカリヤ」ハ其ノ種類名稱ヲ明カニスルコトヲ得ズ且ツ未ダ一モ其ノ發育史ヲ探グル能ハザレドモ爰ニ其ノ所見ヲ記シテ高教ヲ仰ガント欲ス

新竹地方淡水水産腹足類ニ屬スル貝類ニ左ノ種類アリ

一、前腮類

a. 河貝子

b. 田螺

c. 「マメタニシ」(假稱)

二、右肺類

1. 「ものあらかひ」

2. 「ひらまきかひ」

(一) 河貝子ニハ其ノ形狀ニヨリ四種ヲ區別スルコトヲ得

(A) 介殼ハ淡灰黑色ヲ呈シ表面無數ノ疣突アリテ粗糙ナリ質硬クシテ壓潰シ難ク其形短鈍ナル圓錐形ヲ呈シ高サニ○密迷幅一○密迷アリ廻旋ハ徐々平等ニ擴大シ開口部ニ近ヅキテ急ニ大ナル廻旋ノ數ハ七、八ナリ開口部ニテ甞有ス河流ノ水勢緩ナル處ニ棲息ス新竹地方平地ノ河川ニハ最も普通ニ見ラルル處ノモノナリ

(B) 介殼ノ表面暗黑色ニシテ平滑ナリ前者ヨリモ僅ニ細長ナリ縮池或ハ河流ノ甚ダ緩ナル處ニ棲息ス山地ニ於テハ唯此一種類ノミ發見セラル、今假リニ黒河貝子ト稱セン

(C) 形狀大サ共ニ(A)ニ類スレドモ介殼ノ表面ニ於テ縦列ヲナセル數箇ノ橢狀隆起ヲ有セリ新竹地方ノ河川ニハ甚ダ稀ニ見ラル、處ノモノナリ

(D) 形體著シク細長ニシテ數箇ノ縦列ヲナセル低キ橢狀隆起ヲ有シ大ナルモノ長サ三五密迷幅一○密迷アリ之レ亦稀ニ見ラル假ニ長河貝子ト稱セ

(二) 田螺 普通見ル處ノモノ、一種ナリ

(三) 「マメタニシ」(假稱)ニ二種アリ

(イ) 「ヒロクチマメタニシ」(假稱)

(ロ) 「ホソクチマメタニシ」(假稱)

二者共ニ五―六密迷ノ長サアル小螺ニシテ介殼ハ薄弱平滑ナリ甲ハ口頗ル大ニシテ乙ハ甚ダ小ナリトス溝渠或ハ水溜ノ水草間ニ於テ求ムルコトヲ得ベシ

(四) 「ものあらかひ」一種類アリ

(五) 「ひらまきかひ」二種アリ甲ハ兩面共扁平ニシテ薄シ「うすひらまきかひ」ト假稱シ乙ハ背面少シク凸隆シ腹面ハ陷凹シテ厚シ故ニ「あつひらまきかひ」ト假稱セリ甲ハ直徑四―五密迷乙ハ五―六密迷アリ

以上各貝類ノ動物學上ノ名稱ハ詳カナラズ調査ノ上報告

スベシ

此等ノ貝類ニハ一種或ハ數種ノ「チエルカリヤ」ヲ寄生セ

リ
 新竹地方ノ河流ニハ亦蛄、蛤、鳥貝等辨臆類ニ屬ス
 ル介類アリ南庄ノ溪谷ニ於テスラ蛄ノ棲息スルヲ見
 出シタリト雖ドモ何レモ「チエルカリヤ」ヲ見出セザ
 リキ

新竹地方淡水産貝類ニ見ラレタル「チエルカリヤ」ニハ左
 ノ十七種類アリ (Lütke 氏ニ仍ル)

- I Lopho cercurien —
- II Gasterostome Cercurien —
- III Monostome C. 一種
- IV Amphistome C. 一種
- A. Leptocerke C. —
- B. Rhopalocerke C. —
- C. Gystocerke C. 一種
- D. Furrococerke C. 二種
- E. Microocerke C. 一種
- F. Cercurien 一種
- a. Gymnocephale C. 二種
- b. Echinostome C. 四種
- c. Xiphidio C. 一種
- V Distome C. —

第一種

三箇ノ小ナル圓ロキ眼點ヲ有シ尾ハ細長ニシテ粗毛竝ニ
 浮動膜ヲ有セズ體長〇・二八八密迷幅〇・一六二密迷アリ
 全體ニ涉リ暗色顆粒狀色素ヲ有スルガ爲ニ帶褐暗灰色ヲ
 呈シ透明ナラズ前端ハ圓ク後端ハ彎入シ此ノ部ニ〇・
 四二一〇・五六密迷ノ長サアル透明ナル尾ヲ附ス口吸盤
 ノ直徑〇・〇三六密迷アリ腹吸盤ヲ缺ク咽頭食道腸管ハ
 明カナラズ體ノ後端ノ兩側ハ少シク突出シテ小窩ヲ有シ
 吸著ノ用ヲナセリ

河貝子(A)ニ於テ「レヂア」ノ形ニ於テ發育シ「レヂア」ノ
 大ナルモノニアリテハ〇・九五密迷アリ「レヂア」ノ腸管
 ハ長ガシ
 形態上 Monostome Cercurien ニ屬スル處ノ C. imbricata
 ニ甚ダ類似セリ爾後ノ發育詳ナラズ

第二種

體長〇・四密迷幅〇・二密迷アリ尾ハ〇・七密迷長ガシ體
 ハ暗色色素ニ屬シ其ノ構造明カナラズ二箇ノ眼點ヲ有シ
 發育スルニ從ヒ體ノ色素次第ニ消失シ眼點ハ刷毛狀ニ變
 ジ尾ヲ失フ口端ト尾端トニ吸盤ヲ有ス

「うすひらまきかひ」ニ寄生ス Papanaphistotom ノ「チエ
ルカリヤ」ナルベキモ其ノ後ノ發育不詳

第三種

無色ノ「チエルカリヤ」ニシテ體長〇・一〇八一〇・一四四
密迷〇〇・五四一〇〇・七二密迷アリ尾ハ〇・二五密迷長
ガシ口吸盤ノ直徑〇〇・一八密迷アリ腹吸盤ハ明カナラ
ズ

「ホソクチマメタニシ」ノ肝臟ニ於テ「レヂア」トナリ發育
シ其ノ「レヂア」ノ長サ〇・七二一〇・九密迷幅〇・一〇八
密迷アリ「レヂア」内ニ於ケル「チエルカリヤ」ノ配列ハ特
異ニシテ二箇ヅ、互ニ竝列シテ存ス大正三年六月一日樹
杞林ニ於テ一回之ヲ見タリ

第四種

體ノ前方ニ於テ二箇ノ眼點ヲ有シ體長〇・一五二一〇・一
九八密迷幅〇〇・六三二一六三一〇〇・七六密迷アリ淡褐色
ノ色素ヲ有シ咽頭食道腸管等明カナラズ體ノ中央ニ當リ
人字狀ノ細胞群アリ尾ハ細長ニシテ粗毛ヲ有シ浮動膜ナ
シ〇・三六一〇〇・三八密迷ノ長サアリ口吸盤ハ直徑〇・〇
三六密迷腹吸盤ハ之レヨリモ稍々小ニシテ〇〇・三密迷

アリ體ノ後方ニ位セリ

河貝子(A)及ビ(B)ニ於テ「レヂア」ノ形ヲナシ「レヂア」
ノ長サハ〇・五七一〇〇・七六密迷幅〇・一三三密迷アリ形
態上籠形肝「デストマ」ノ「チエルカリヤ」ニ一致セリ

第五種

全體美黄色ヲ呈シ不透明ナリ體長〇・三密迷幅〇・一二六
密迷アリ口吸盤ノ直徑〇〇・三六密迷腹吸盤ノ直徑〇〇
三密迷ナリ腹吸盤ハ體ノ中央ノ少シク前方ニ位ス尾ノ長
サ〇・一八密迷アリ「チエルカリヤ」ノ幼若ナルモノハ無
色ニシテ長ズルニ從ヒ黄色々素ヲ附著ス小ナルモノ、體
長〇・一二密迷幅〇〇・七密迷アリテ尾ハ長ガシ
河貝子(D)ノ肝臟ニ於テ「レヂア」ノ形ニ於テ發育シ「レ
ヂア」ノ長サ〇・三二六密迷幅〇〇・七二密迷アリ大正三
年四月二十一日新竹ニ於テ一回之ヲ見タルノミ

第六種

體ハ暗色ヲ呈シ長サ〇・三二一〇〇・三六密迷幅〇・一六密
迷アリ尾ハ細長ニシテ〇・四密迷ノ長サアリ尖端ハ少シ
ク膨大シテ吸著ノ用ヲナスガ如シ口吸盤ハ直徑〇〇・五
四密迷腹吸盤ハ〇〇・六三密迷アリ腹吸盤ハ殆ンド體ノ

中央ニアリ發育セル「チエルカリヤ」ハ水底ニ於テ自ラ被包囊ノ形ヲナシ被包囊ハ巾著狀ヲナシ長サ〇・三六密迷幅〇・一八密迷ノ大サアリ被包囊内ニ於ケル蟲體ハ顆粒狀ヲ呈シ運動シツ、アリ蟲體ノ直徑〇・一八密迷アリ被包囊ヲ壓出セル處ノ蟲體ハ長サ〇・三六密迷幅〇・一六密迷アリ

河貝子(D)ノ肝臟ニ於テ「レチア」トナリ發育ス「レチア」ノ大ナルモノハ長サ一・八二密迷幅〇・二七一〇・三六密迷アリ大正三年五月十六日崙仔庄ヨリノ長河貝子ニ於テ唯一回之ヲ見タリ

第七種

頭部ニ三十七(?)ノ小棘列アル冠ヲ有シ尾ニハ浮動膜ナシ腹吸盤ハ體ノ中央ノ後ニアリ腸管ハ腹吸盤ノ直前ニ於テ分岐セリ體長〇・三一一〇・四密迷幅〇・〇九一〇・一六密迷アリ尾ノ長サ〇・三三一〇・三六密迷アリ口吸盤ハ直徑〇・〇七二密迷腹吸盤ト同大ナリ

「ものあらかひ」ノ肝臟ニ於テ發育シ「レチア」ノ大ナルモノハ長サ三・六密迷ニ達ス淡褐色ヲ帶ビ「レチア」ノ腸管ハ長ガシ同ジ宿主ノ體內ニ於テ被包囊ヲ造ル其被包囊ノ

直徑〇・一八密迷アリ Echinostome Cercarien ニ屬スル處ノ Cercaria Cornuta ニ類スレドモ多少ノ差異アルガ如シ

第八種

體長〇・二三四密迷幅〇・一四四密迷アリ口吸盤ハ直徑〇・〇四五密迷腹吸盤ハ〇・〇五四密迷ノ直徑アリ腹吸盤ハ體ヲ中央ノ稍々後方ニ位ス口圍ニ稍々著明ナル棘列(棘數不詳)ヲ有ス尾ノ長サ〇・一八密迷アリ

「あつひらまきかひ」ニ寄生シ「レチア」ノ長サ一・〇二密迷幅〇・一八密迷アリ腸管長ガク體ハ褐色ヲ帶ブ同ジ宿主ノ體內ニ於テ被包囊ヲ形成シ其被包囊ノ大サ直徑〇・一五八密迷アリ被膜ハ稍々厚クシテ〇・〇一五密迷アリ南庄支廳北獅里興庄ノ溝中ノ「ひらまきかひ」ニ於テ一回之ヲ見タリ

Echinostome C. ニ屬スルモノナリ

第九種

體長〇・二七密迷幅〇・一八密迷アリ口吸盤ノ直徑〇・〇三六密迷アリ穿刺ヲ有ス腹吸盤ノ大サ口吸盤ト同ジ「あつひらまきかひ」ニ寄生シ「スポロチステ」ハ赭褐色ヲ

呈ス大正二年六月一日樹杞林支廳上山庄ニ於テ一回之ヲ見タリ Xiphidio C. ニ屬スルモ其ノ種類詳ナラズ

第十種

體長○・一八密迷幅○・〇九密迷尾ノ長サ○・一八密迷アリ口腹吸盤ハ同大ニシテ直徑○・〇三六密迷アリ口吸盤ニ穿刺ヲ有ス

「うすひらまきかひ」ニ寄生シ「スポロチステ」ハ無色ナリ長サ○・九密迷幅○・〇九密迷アリ大正三年六月一日上山庄ニ於テ一回之ヲ見タリ Xiphidio C. ニ屬スルモ詳ナラズ

第十一種

口吸盤ニ穿刺ヲ有シ體長○・一八一○・二密迷幅○・一二六密迷尾ノ長サ○・二密迷アリ口吸盤ハ直徑○・〇五四密迷腹吸盤ハ直徑○・〇三八密迷ニシテ口吸盤ヨリモ小ナリ殆ンド體ノ中央ニ位ス腹吸盤ノ兩側ニ於テ三對ノ毒腺ヲ有ス咽頭ハ能ク發育シ腸管ハ僅ニ分歧部ヲ見ルニ過ギズ

「ものあらかひ」ノ肝臓内ニ於テ「スポロチステ」ヲ形成シ其大サ大小アリテ一様ナラズト雖ドモ大ナルモノ長サ○

●五密迷幅○・二五密迷アリ同ジ宿主ノ體內ニ於テ「チエルカリヤ」ハ被包囊ヲ造ル其被包囊ノ大サ○・一二六密迷ノ直徑アリ有劍「チエルカリヤ」Xiphidio C. ニ屬ス

第十二種

口吸盤ニ特異ノ構造ヲ有スル器官アリ即チ二箇ノ梨子狀體ノ集合ヨリナレリト雖ドモ其梨子狀體ノ尖端ハ、Vignulae トハ全ク反對ノ方向ヲ取り體ノ後方ニ向フ、穿刺ヲ有シ其穿刺ノ尖端ニ小環ヲ附セリ體長○・一一密迷幅○・〇九密迷アル小ナル「チエルカリヤ」ニシテ尾ノ長サ○・〇五四密迷アリ口吸盤ノ長サ○・〇三六密迷幅○・〇三二密迷腹吸盤ハ直徑○・〇一八密迷穿刺ノ長サ○・〇一六密迷幅○・〇〇五四密迷アリ三對ノ毒腺ヲ有シ排泄囊ハ凹形ヲナス

河貝子(A)(B)及ビ(D)ニ於テ「スポロチステ」ヲ形成シ其大サ大小不同アルモ長サ○・一五一○・三二密迷幅○・一一一○・一八密迷アリ有劍「チエルカリヤ」ニ屬ス

新竹地方ニ於テ最モ普通ニ見ラル、處ノモノニシテ肺二口蟲ノ最モ濃厚ナル蕃地ニ於テモ南庄邊ニ於テモ亦新竹邊ニ於テモ見ラル、處ノモノナリ肺二口蟲トハ密接ノ關

係ヲ有スルモノナリト考フレド培養試験未ダ成功セザル
ニヨリ決定シ難キヲ遺憾トス

第十三種

有囊「チエルカリヤ」ニ屬スルモノニシテ河貝子(B)ノ肝
臟ニ於テ「レヂア」トナリ發育シ「レヂア」ノ長サ一・二六
密迷幅〇・四五密迷アリ活潑ニ運動ス腸管ハ長ガクシテ
黄色ノ内容ヲ有ス「チエルカリヤ」ハ固有ノ形體ヲ有シ尾
ニ於ケル囊部ハ「チエルカリヤ」體ト長ガキ突起物ヲ容ル
ル處ノ室ヲ有スルモノナリ室ノ大サハ〇・二一六密迷ノ
長サ〇・一六二密迷ノ幅アリ室ニ連續スル尾ハ細長トナ
リ〇・九密迷ノ長サニ達ス蟲體ノ長サ〇・二二六密迷幅〇・
一四密迷アリ而シテ突起物ノ長サハ〇・四五密迷ナリ發
育セル「チエルカリヤ」ハ水底ニ於テ被包囊ヲ形成シ被包
囊ノ形狀ハ絲狀菌ノ芽胞ノ如クニシテ細長ノ尾ヲ附セリ
被包囊ヨリ出セル蟲體ハ長サ〇・四密迷幅〇・二密迷アリ
テ口吸盤ハ體ノ前端ニ接シテ見ラレ直後ニ咽頭アリ腹吸
盤ノ存スル體部ハ僅ニ絞約セラル、ヲ見ル排泄囊ハ圓形
ナリ

斗崙庄及ビ南庄ニ於テ之ヲ見タリ

第十四種

叉狀ニ分岐セル尾ヲ有シ體長〇・三二密迷幅〇・一四密迷
尾ノ長サ〇・五二密迷アリ口吸盤ノ大サハ長サ〇・〇五四
密迷幅〇・〇三六密迷腹吸盤ハ之レヨリ著シク小ニシテ
直徑〇・〇一八密迷アリ體ノ中央ノ稍々後方ニ位ス
田螺ノ肝臟ニ於テ「レヂア」トナリ發育ス「レヂア」ハ種々
ノ形ヲナシ一定セズ岐尾「チエルカリヤ」Furocoerke C.
ニ屬ス

第十五種

岐尾「チエルカリヤ」ニ屬スルモノニシテ體長〇・一二六
密迷幅〇・〇三六密迷アリ口吸盤腹吸盤ハ同大ニシテ直
徑〇・〇二一六密迷アリ腹吸盤ハ體ノ中央ヨリ少シク前
方ニ位セリ咽頭食道等不明ナリ尾ノ全長〇・二三四密迷
ニシテ其約半ニシテ分岐セリ「スポロチステ」ノ長サ〇・
五四一〇・八密迷幅〇・一二六密迷アリ無色ニシテ少シ
ク運動性ヲ有ス南庄川ノ「うすひらまさかひ」ニ寄生セリ
C. Fassi-gaunda ニ類スレドモ又異ナル點アリ

第十六種

短尾「チエルカリヤ」ニ屬スルモノニシテ體長〇・二七一

○・二六密迷幅 ○・〇九一 ○・一四密迷アリ口吸盤ハ直徑
 ○・〇五四密迷アリ腹吸盤モ同大ナリ腹吸盤ハ體ノ中央
 ノ少シク後方ニアリ咽頭食道ハ發育セルモ腸管ハ未ダ見
 ラレズ尾ノ長サ僅カニ ○・〇五四密迷ニ過ギズ河貝子
 (B)ノ肝臟ニ於テ「レデア」ノ形ヲ取り發育シ「レデア」ハ
 甚ダ活潑ナル運動ヲ有ス「レデア」ノ長サ○・五七一○・七
 二密迷幅○・二二六一○・一八密迷アリ橙紅色ノ色素ヲ有
 シ甚ダ美麗ナリ「レデア」ノ體內ニ於テ發育セル「チエル
 カリヤ」ハ又能ク活潑ニ運動シツ、アリ
 大正三年四月二十五日浦雅庄ニ於テ發見セリ

第十七種

尾ヲ有セザル「チエルカリヤ」ニシテ體長○・二七一○・三
 六密迷幅 ○・〇九九一 ○・一一密迷アリ口吸盤ハ○・〇六
 密迷腹吸盤ハ ○・〇六八密迷ノ直徑アリ腹吸盤ハ殆ンド
 體ノ中央ニアリ咽頭ハ著シク發育シ腸管ハ腹吸盤ノ背部

吸 蟲 類

宿

主

地

方

- 1. D. trunca Suis
- 2. D. hepaticum
- 3. D. lanceolatum

- 豚 肝
- 水牛、山羊、黄牛及豚肝
- 黄牛ノ肝

- 各地、二林方面最多
- 各地ニ多シ
- 各地

ニ於テ分岐セリ排泄囊ハ長圓形ヲナセリ
 河貝子(B)ノ肝臟内ニ於テ發育シ「レデア」ノ長サ○・七
 六一○・九五密迷幅○・一一一○・一九密迷アリ「レデア」
 ノ腸管ハ長ガシ
 以上十七種ニ就テ多ク見ラル、モノヨリ少ナキモノニ至
 ル順ニ記載スレバ第十二種第七種最モ多ク見ラレ之ニ次
 グモノハ第四種第十一種第二種ナリ第十六種第十四種第
 十三種之ニ次ギ其他ハ甚ダ稀有ニシテ唯一回見タルニ止
 マレルモノ數種類アリキ
 臺灣殊ニ新竹地方ニ於テ人類ニ寄生スル處ノ吸蟲類ハ肺
 二口蟲(本島人ニ於テ)ヲ最多トシ稀レニ籠形肝臟デスト
 マ及ビ横川氏メタゴニームス(内地人ニ於テ)ヲ見ルニ過
 ギズ家畜ニ於ケル吸蟲類ノ寄生狀況ハ岡田寛治氏ニ仍レ
 バ左ノ十種類アリ

4. *D. grassum*

豚ノ腸

各地、中部地方ニ多シ

5. *Parag. westermanni*

豚ノ肺及肝

各地但シ臺北ニ多シ

6. *D. pancreaticum*

黄牛ノ睥

各地

7. *D. spatulatum*

豚ノ肝

各地

8. *Schistosoma japonicum*

水牛・黄牛、豚、山羊、犬、猫ノ門脈、腸管膜靜脈及ビ直腸靜脈

北斗、二林及ビ鹿港地方

9. *Monostoma*

山羊ノ腸

西螺

10. *Amphistom conicum*

水黄牛及山羊ノ第一胃

各地

日本住血吸蟲ノ他ハ新竹地方ニ於テ見ラルベキモノニシテ又家禽ニモ種々ノ吸蟲類ノ寄生セルナルベク家鴨ノ盲腸ニハ「エキノストーム」ノ寄生スルモノアリ其他野生鳥

獸類乃至兩棲類魚類等各種ノ動物ニ於テモ吸蟲類ノ寄生稀レナラザルベク此等吸蟲類ノ研究ハ蓋シ甚ダ興味アル問題ナラン



